

令和 2年 9月

河野友輔 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久

副主査 初 沢 清 隆

同 藤 原 義 之

主論文

Increased PD-1-positive macrophages in the tissue of gastric cancer are closely associated with poor prognosis in gastric cancer patients.

(胃癌組織におけるPD-1陽性マクロファージの増加は、胃癌患者の予後不良と密接に関連している)

(著者：河野友輔、齊藤博昭、宮内亘、清水翔太、村上裕樹、宍戸裕二、宮谷幸造、松永知之、福本陽二、中山祐二、櫻井千恵、初沢清隆、藤原義之)

令和2年 BMC Cancer 20巻 article number 175

参考論文

1. Postoperative ratio of the maximum C-reactive protein level to the minimum peripheral lymphocyte count as a prognostic indicator for gastric cancer patients

(胃癌患者の予後指標としての最高C反応性タンパクレベルと最低末梢リンパ球数の術後比)

(著者：河野友輔、齊藤博昭、村上裕樹、宍戸裕二、黒田博彦、松永知之、山本学、福本陽二、尾崎知博、蘆田啓吾、藤原義之)

平成31年 Surgery Today 49巻 206頁～213頁

2. Increased regulatory B cells are involved in immune evasion in patients with gastric cancer

(制御性B細胞の増加が胃癌患者における癌細胞の免疫回避へ関与している)

(著者 : 村上裕樹、齊藤博昭、清水翔太、河野友輔、宍戸裕二、宮谷幸造、松永知之、
福本陽二、蘆田啓吾、坂部友彦、中山祐二、藤原義之)

令和元年 Scientific Reports 9巻 article number 13083

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌切除検体を用いて、マクロファージの表現型、食食能及びPD-1の発現を検討し、PD-1発現マクロファージと臨床病理学的因子や予後との関連を検討したものである。その結果、癌部に高発現するPD-1陽性マクロファージはM2型の表現型で食食能が減弱していることが示され、さらに、癌部におけるPD-1陽性マクロファージの発現率が胃癌患者の独立した予後不良因子であることが示された。本論文の内容は、臨床腫瘍免疫学の分野で、抗PD-1抗体によるマクロファージを介した抗腫瘍効果の可能性や腫瘍免疫におけるマクロファージの重要性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。